奈良県版保育士等育成指標モデルの見方・活用について

「奈良県幼稚園等教諭・保育教諭の資質向上に関する指標モデル」との整合や、奈良県の就学前教育の考え方を取り入れた「奈良県版保育士のための育成指標モデル」を策定し、保育士等が自らの目標・理想像を明確にし、保育士としてのやりがいを向上させるため、その基礎となる育成指標モデルを策定

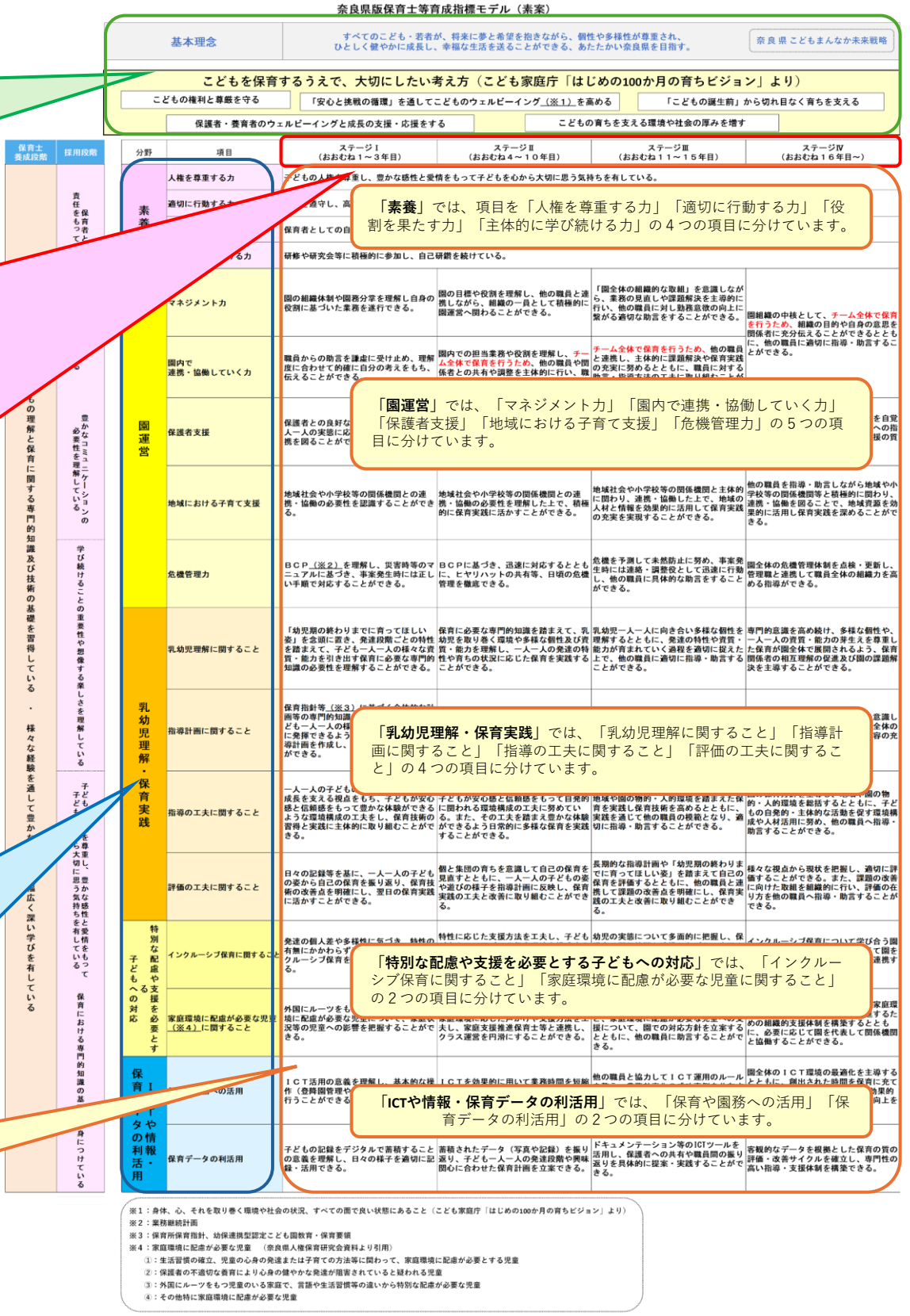
【指標の見方】
（例）保育士の資質向上に関する指標

奈良県のこども施策を総合的に推進する「奈良県こどもまんなか未来戦」及び、こども家庭庁「はじめの100か月の育ちビジョン」を踏まえ、指標を策定しています。

横軸には、保育士等養成段階スタート時から充実期までの「キャリアステージ」を示しています。
①ステージⅠは、専門的知識の必要性及び保育力を身につけるとともに、園組織の一員としての自覚を高める期間
②ステージⅡは、保育実践等の専門的知識・技術を習得し、指導の工夫や視野の拡大に努める期間
③ステージⅢは、ミドルリーダーとしての役割を果たし、その経験を生かした指導・助言や、組織マネジメント力の向上に努める期間
④ステージⅣは、園の中心として、リーダーシップを発揮して、園運営等に参画する力を付けていることが望まれる期間
キャリアステージはあくまでも自己のキャリアに応じた目安として設定しています。

縦軸には、保育士等として付けたい力「資質・能力」を示しています。
分野として、保育士としての「素養」、「園運営」、「乳幼児理解・保育実践」、「特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応」、「ICTや情報・保育データの利活用」の５つに分け、さらにその分野を分類し、１７項目に整理しています。

各ステージの修了までに身に付けたい資質・能力を目標として示しています。



【指標の活用】

保育士としての活用方法（例）

①各ステージにおける保育士として求められる姿の把握
②定期的な自己評価と自身の状況の明確化
③自身の課題改善やさらに高度な段階を目指す取組の実践
（OJT、自主研修、園内研修、法定研修及び園外研修等）
※ RPDCAサイクルに基づき資質・能力の向上を目指す。

管理職としての活用方法（例）

①OJTにおける指導・助言
②目標管理の面談等
③園内研修の推進
④園外研修の推進